

タイ王室森林局が日林協を訪問

当協会では、国際協力機構（JICA）が行う事業において、森林分野の研修を実施しています。2018年度は、Eco-DRR（生態系を活用した防災・減災）をテーマとした課題別研修を実施し、2019年9～10月の3週間、7か国から7名の研修員に対して講義、視察、ワークショップ等を行いました。

研修中は研修員と濃密な時間を過ごすため、その繋がりがその後の活動に繋がる、ということも少なくありません。これもその一例です。

2018年度のEco-DRR研修に参加したタイ王室森林局の職員が、国際熱帯木材機関（ITTO）の出資による、PEFCとの相互承認を目指してタイが独自に新設した森林認証制度の利用促進をテーマとした研修で、再度来日する機会があり、その中で、「ぜひ日本森林技術協会を再訪したい」と要望されました。理由は、Eco-DRR研修の中で受けた

当協会での最先端技術（もりったい、地上レーザー、全天球カメラ）に関する講義が印象的で、ぜひ他の研修員にも共有したい、と考えてくださったからです。

当協会はこの依頼を快諾し、2019年3月19日にタイ王室森林局および大学からの研修員、計9名を当協会にて受け入れました。当日は、森林認証の具体的な市場需要として、「クリーンウッド法における合法性確認の観点から日本の木材輸入事業者が森林認証制度をどのように活用しているか」、また、森林認証の第一原則である合法性の確保のための技術開発として、「衛星画像による森林変化の解析結果と連携したタブレット端末で地上調査を効率的に実施する森林モニタリングシステム（ベトナムにおけるJICA技術協力）」、さらには、効率的な林内調査技術として、「地上レーザーを使った



3次元林内計測技術」といったテーマについての講義、意見交換を行いました。

タブレットや地上レーザーを利用した技術については特に関心が高く、ぜひタイでも取り入れたいという意見が上がりました。タイでは、ゴムの木やユーカリを多数の小規模な兼業農家が契約栽培しており、そのトレーサビリティ確保に向けた制度設計や技術開発が当面の課題となっているようです。

研修や業務から派生するこういった繋がりを今後も大切にしながら、海外における森林技術の普及に努めたいと思います。

（日林協 国際協力グループ
／木村紗矢子）

お知らせ

2019年 第14回 建設トップランナーフォーラム

- 主 催：建設トップランナー倶楽部
- 後 援：日本青年会議所建設部会、全国建設業協会、建設業振興基金、建築技術支援協会
日本プロジェクト産業協議会、建設コンサルタンツ協会、地方建設専門紙の会
- 日 程：2019年6月28日（金）14：00～18：45 ●参加無料
- 会 場：イイノホール Room A（大会議室）
- テーマ：原点回帰—複業で地域を支える
- 内 容：14：00～ 開会・趣旨説明・来賓挨拶
14：10～ 第1部 農業などへの複業化
15：25～ 第2部 高齢化社会を支える地域建設業
16：30～ 第3部 再生可能エネルギー・環境事業への進出
17：20～ 第4部 大震災からの復興 地域材を使ったスクラムかみへい住宅
18：20～ 総括コメント
18：40～ 閉会の言葉
- 申込方法：建設トップランナー倶楽部ホームページの申込フォームからお申し込みください。
<http://www.kentop.org/>
- お問い合わせ：建設トップランナー倶楽部 事務局 中川寛子、大里茂登子
Tel 03-5876-8461 Fax 03-5876-8463 E-mail：info@kentop.org